

【研究概要】

大動脈弁狭窄症に対する人工弁手術は確立された治療法であるが、大血管内に人工弁を留置するため血管内溶血が強く関わる。血管内溶血の発生はその後の長期予後に影響することが明らかとなってきたが、外科的大動脈弁置換術と経カテーテル大動脈弁植え込み術における血管内溶血の頻度や臨床的アウトカムの比較データは存在せず、我々は前向きコホート研究によりこれらを解明することとした。